

阿賀川におけるコクチバス繁殖の確認

福島県内水面水産試験場 調査部
平成16年度事業報告書

1 部門名

水産業－内水面(増養殖)－内水面漁業、その他魚類(内水面)
分類コード 19-08-22650000

2 担当者

佐久間徹・廣瀬 充

3 要旨

コクチバスは近年河川において生息が確認され、個体数の増加が見られていることから、駆除に活用するため、阿賀川において繁殖生態を調査した。

宮古橋上流右岸、中の目公園上流右岸、本郷鉄橋下流右岸の3ヶ所について、潜水目視によりコクチバス親魚、産卵床、卵の有無を調査した。産卵床について、その形成場所を確認し、水深及び流速(20秒平均値)を測定した。調査は6月18日に実施した。

- (1) 産卵床の跡を、宮古橋で4ヶ所、中の目公園で4ヶ所確認した。産卵床はすべて護床ブロックの内側に形成されており、砂が除かれ小石が露出していた。産卵床が形成された水深、流速は8ヶ所ともほぼ同じであり、水深0.80～1.12m、流速0.0～6.0 cm/sと緩やかな流れの場所であった。
- (2) 浮上した仔魚の群れを、宮古橋で2群、中の目公園で4群確認した。卵は確認できず、すべて浮上した仔魚であり、産卵床から少し離れた場所に群れていた。調査時の水温は19.8℃であり、また、仔魚の大きさから、産卵期は水温が16℃を超えた5月下旬であったと考えられた。
- (3) 全長20cm以上のコクチバスを宮古橋で4尾、中の目公園で6尾確認した。中の目公園では、雄親魚と思われる個体が仔魚の近くから離れず、保護していた。
- (4) 繁殖期と水温、産卵床を形成する水深は、湖沼での繁殖生態と同じであった。湖沼と違い河川では流れがあるため、流速の遅い護岸ブロックの内側を選択して産卵場として利用していた。河川でコクチバスの繁殖抑制を行う際には、こうした流れの緩やかな場所を中心に産卵床探索、親魚捕獲を実施することで駆除効果が得られると考えられる。

4 その他の資料等

なし